

高等教育機関としての国際標準の英語教育を目指して

- 宇都宮大学の共通英語教育についての20の提言 -

宇都宮大学大学懇談会発表資料

2009年3月10日(火)

10:00 ~ 12:00

宇都宮大学附属図書館3階会議室

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林 明夫

1. はじめに

- (1) グローバル化がすすむ中で、大学改革の一環として、宇都宮大学が共通英語教育について改革をすすめようとするのは高く評価される。学長の強力なリーダーシップのもと、全学部長が心を一つにし一丸となって改革を推進し、宇都宮大学が高等教育機関としての国際競争力を備え、地域社会の発展に貢献する役割を果たすことを期待したい。
- (2) これからの高等教育機関は、超少子化による 18 歳人口減による適切な入学者確保の困難化だけでなく、学生や教員の移動の自由化による激しい国際的な競争に耐えることが求められる。大学改革においても、大学の建学の精神や社会的使命(mission ミッション)を強く自覚しながら「学生本位」の「独自性」に満ちあふれた内容を全教員と事務職員の能力を最大に強化しながら行うことが求められる。
- (3) 以上のような観点から、宇都宮大学の共通英語教育改革においては、高等教育機関としての国際標準の英語教育を目指すことを提言したい。 提言 1

2. 高等教育機関としての国際基準の英語教育を目指して

- (1) 教員体制は、原則として TESOL 専門家とし、順次推進することは高く評価される。また、TESOL 教員団による企画運営委員会が英語教育改革を推進することも高く評価される。TESOL 教育団による企画運営委員会におけるアジェンダの設定や議論、報告書は例外なくすべて英語で行うことを提言したい。 提言 2
- (2) 共通英語教育を統一シラバスのもとで実施することも高く評価される。
統一シラバスは、各教員に提案権を与え、コンペを実施、公開のプレゼンを経た上で行い、採用者を企画運営委員会の担当サブリーダーにすることでインセンティブを与えることを提言したい。 提言 3
- (3) 学内向けの到達努力目標を設けることは高く評価される。
到達努力目標として「英語検定準 2 級」「CEFR A2」は高等教育機関として国際標準を目指すには余りにも低すぎるので、「英語検定」であれば、「準 1 級」を到達目標にし、全学生の最低目標として「2 級」の取得を、「CEFR」であれば「C1」を到達目標とし、全学生の最低目標として「B2」を設定することを提言したい。 提言 4
- (4) 英語教科書シリーズに難易度表を用いることは高く評価される。
ただし、これらの教科書は欧米人の学生向けの教科書に過ぎない。日本人の学生は会話、発表、議論、作文の能力は低い、文法力、語彙(ごい)力、読解力はある程度備わっている場合が多い。
このような日本の大学生の特性、宇都宮大学の学生の学習レベルに合わせた教材の開発を TESOL 教員団が行うことを提言したい。 提言 5
- (5) 履修単位として 1 年時 6 単位、2 年時 2 単位準備することは高く評価される。
2 年時以降においても 1 年時と同様 6 単位が取得できるよう卒業年度までに毎年様々な科目を準備することを提言したい。 提言 6

(6)各キャンパスに最低一箇所ネイティブと会話や質問ができるネイティブとの接点の場を設けることでコミュニケーション能力の促進を提言したい。 提言 7

(7)一般教養科目、専門科目において英語による授業が可能な教員は、できるだけ英語の教科書、参考資料を用いて英語で授業をすることを、大学として奨励することを提言したい。 提言 8

(8)通訳なしの英語による学会、国際会議、講演会、BBL(Brown Bag Lunch)を宇都宮大学においてもできるだけ開催することを提言したい。 提言 9

(9)大学教員は英字新聞を家庭で講読すること、大学図書館は日本で発行されている英字新聞をできるだけ多く備えること、学生には「英字新聞」を毎日読んで考える能力を取得させることを提言したい。 提言 10

4. おわりに

(1)大学入学までに大学での教育・研究に耐えられるだけの基礎学力が備わっていない場合には、入学前、入学後の「リメディアル(補修)教育」が必要不可欠である。宇都宮大学の共通英語教育についても「リメディアル教育」のカリキュラムづくりとその実施を提言したい。 提言 11

(2)同時に、大学生としての Learning To Learn(学び方を学ぶ)スキルが身に付いていない学生については、「初年度教育」が必要不可欠である。宇都宮大学の共通英語教育についても「初年度教育」のカリキュラムづくりとその実施を提言したい。 提言 12

(3)文部科学省により、近い将来高等学校における英語の授業はすべて英語で行うことが決定された。宇都宮大学においても、今後、すべての英語の授業は英語で行うことを提言したい。 提言 13

高校はじめ、中学校、小学校、専門学校、短期大学、大学などで英語による授業を目指す場合に、大学院修士課程を修了し、第2言語としての英語教師 TESOL の修得は必要不可欠である。宇都宮大学に TESOL の修得できる専門職大学院を設置し、現職の語学教師に再教育の機会を提供することを提言したい。 提言 14

現職英語教師全員に TESOL 修得の機会を提供することは、宇都宮大学が地域の発展に貢献し、高等教育機関としての役割を果たす上で極めて高く評価されると確信する。

(4)宇都宮大学の共通英語教育の内容の大半(シラバス、教授用資料、テスト問題とその解答と授業内容の音声・画像配信も含め)を OCW(オープン・コース・ウェア)として、ホームページ上で順次公開し、宇都宮大学の知財を地域の発展のために提供することを提言したい。 提言 15

(5)2年次以上の学生には、各学部の基本的な内容に関する英語による講義を履修できるしくみをつくることを提言したい。 提言 16

その前提として、中学校・高校レベルの基本的内容を英語で受講できるしくみをつくることも提言したい。 提言 17

* 大多数の日本人は、日本語で初等・中等教育(中学校・高校の教育)を受けているため、各教科の基本的内容を日本語で理解し、身に付けている。日本語での学力はあるが、英語でそれが活用できない。このことを補うしくみづくりが、今後の英語教育には求められる。この分野での社会人の需要は無限大と言える。宇都宮大学はその担い手になっていただきたい。

(6) ヨーロッパの語学教育の飛躍の柱ともなった CEFR(外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)が少しずつではあるが、日本の語学教育担当者にも知られ、この度の宇都宮大学の共通英語教育でも参考に供せられるようになった。

宇都宮大学では、この CEFR の研究成果を最大限活用すると同時に、宇都宮大学独自の「共通参照枠」を開発し、学生が進学・留学・就職の際に「経歴書」や「ジョブ・カード」にその成果を項目別に記載できるレベルにまで「厳格な評価」をするしくみをつくることを提言したい。

提言 18

(7) 語学教育は英語教育にとどまらない。英語以外の語学についても、「TESOL」のような語学教育の専門職集団が中心となって高等教育機関としての語学教育を充実させることが求められる。英語以外の言語については、志を同じくする他大学とコンソーシアムを積極的に組み、各言語コンソーシアムで採用、企画、運営、カリキュラム開発、研修をしながら、各大学に講師を派遣することにより、各大学の学生に多様な言語を本格的に修得する機会を与えることを提言したい。

提言 19

(8) 英語だけがペラペラ話せても、内容がなければ評価は低い。人の話が聞き取れ、書いてあることが読めても、皮相な理解では不十分な場合が多い。自分の力で深くものごとを考え、自分のことばで表現し、発信することが大切だ。

その意味で、大学の知的中心施設である図書館の最大活用が全学生、全教職員に求められる。宇都宮大学のすべての図書館の 365 日、24 時間稼働を最後に提言したい。

提言 20

宇都宮大学の御発展を心より祈念申し上げます。

—2009 年 3 月 9 日記—